

2013年3月4日(月曜日)の東京新聞に 弊社社長の記事が紹介されました。

パン・アキモト社長 秋元 義彦



至言 提言 とちぎの 現場 から

間もなく東日本大震災の発生から丸二年。被災

民が仮設住宅から定住の住まいへ移り住めるとい

興の中で一部の「族」が主導権争いを繰り返す中で、いまだ手付かずの被災地がその姿を露呈しています。

緊急事態にもかかわらず、平時の法律や条例を盾にノンビリ動く官僚主義に、多数の国民は嫌気が差していると思えます。緊急の時こそ緊急の対応策を練ることができ、知恵と経験を生かせるのが人間であり、ロボットとの違いではないでしょうか。

弊社をサポートする人々と、社員が自主的に参加することで、継続的な運営ができています。社長の私にとっては、ボランティアを通じた社員の成長と、物心両面での応援団の存在を心強く感じています。

進まぬ被災地復興

支援の継続を決意

地はどんな様子なのだろうか？ 復興は予定通り進んでいるのだろうか？ 政府が当初「早急に仮設住宅を建て、二年間無償で貸す」と言っていたことを覚えています。二年後には復興が進み、住

う見通しだったのでしよう。果たして現況はいかがなものでしょうか？ あまりにも甚大な被害

金と仕事に群がっている様子があちこちで見受けられるのは、残念無念です。血の通った復旧・復興を目指すなら、主役は現地にあるべきです。

はありますが、毎月被災地回りのボランティアを継続しています。ドーナツ揚げと焼きたてパンの提供です。当初は一年間を目指していましたが、いつの間にか二年になる

ある若手社員が「仮設住宅が無くなるまで続けましょうか？」と言つのを聞いて、ドキッとしましたが、心の中で継続を決意しました。(秋元さんのコラムは今回で終了です)